

KITAKEI-Report

No.122
October 2019

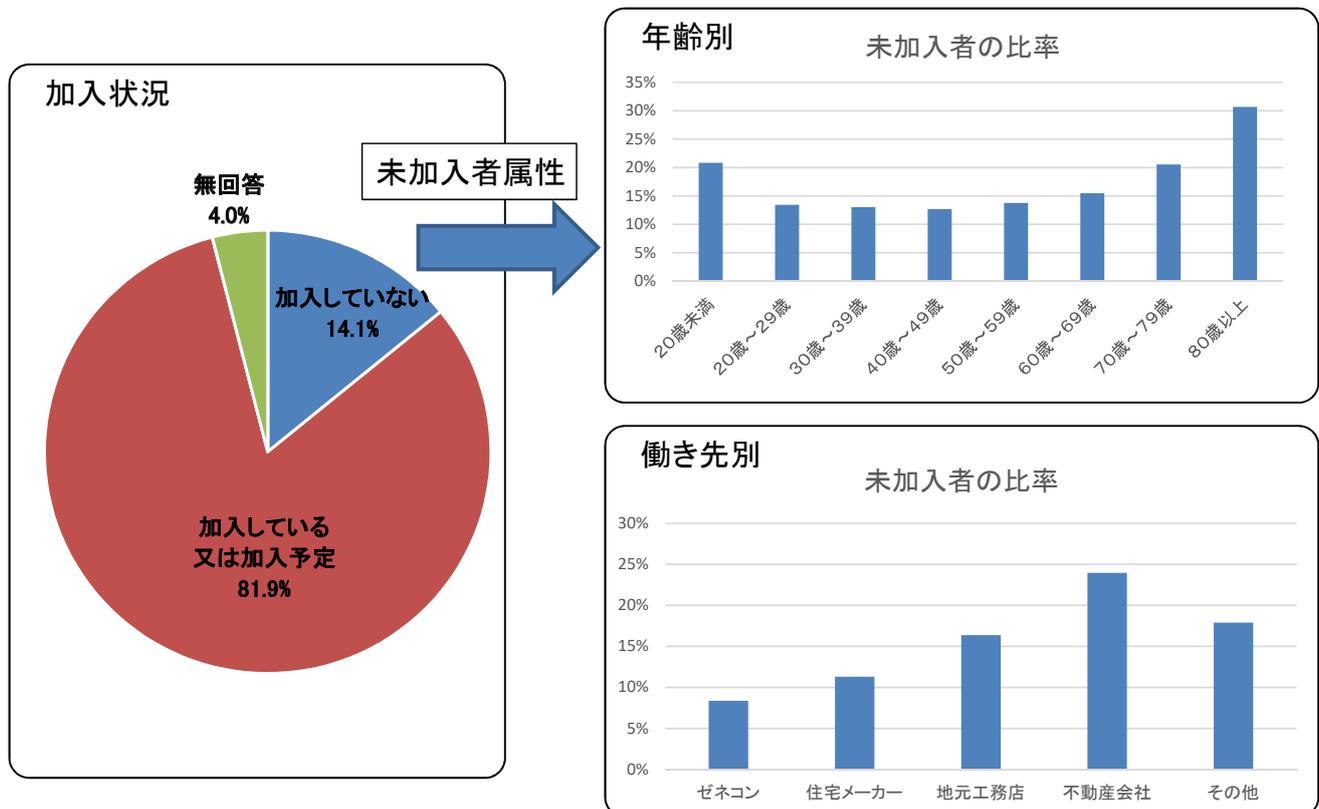
発行：北恵株式会社 〒 541 - 0054 大阪府中央区南本町 3 - 6 - 14 TEL.06 - 6251 - 6701
http://www.kitakei.jp/

一人親方 8割が労災特別保険に 加入・加入予定

建設業一人親方の働く実態等調査
(厚労省・平成 30 年度実施)

厚生労働省はこのほど、昨年度実施した一人親方の実態調査結果をまとめた。労災保険特別加入制度には 81.9%が「加入または加入予定」と回答した。一方で、「加入していない」一人親方は 14.1%。加入していない理由としては、「保険料を負担したくない」(26.5%)、「民間保険に加入済み」(24.9%)、「制度を知らなかった」(24.7%)、「手続きが複雑、面倒」(11.2%)、「補償内容・範囲が十分ではない」(4.3%) などとなっている。

※ 労災保険は基本的には、日本国内で事業主に雇用され賃金を受けている労働者が対象で、自営業主は対象にはならない。ただし、建設業の自営業者は、いわゆる一人親方として元請からの業務に従事しており、業務の実態は労働者と変わらないことから、労働者に準じて保護することを目的に、「労災保険特別加入制度」が設けられている。政府は、建設職人基本法・基本計画(2017年6月閣議決定)の中で、一人親方の「労災保険特別加入制度」への加入を促進している。



Q.元請(又は注文者)との契約(安全経費)はどのようになっていますか(複数選択可)

【安全経費の契約での取扱状況】

	割合	回答数
① 書面で契約しないことが多い	41.9%	17,740
② 必要な安全経費は、ある程度契約の中で認めてもらっている	24.3%	10,309

【安全経費の見積状況】

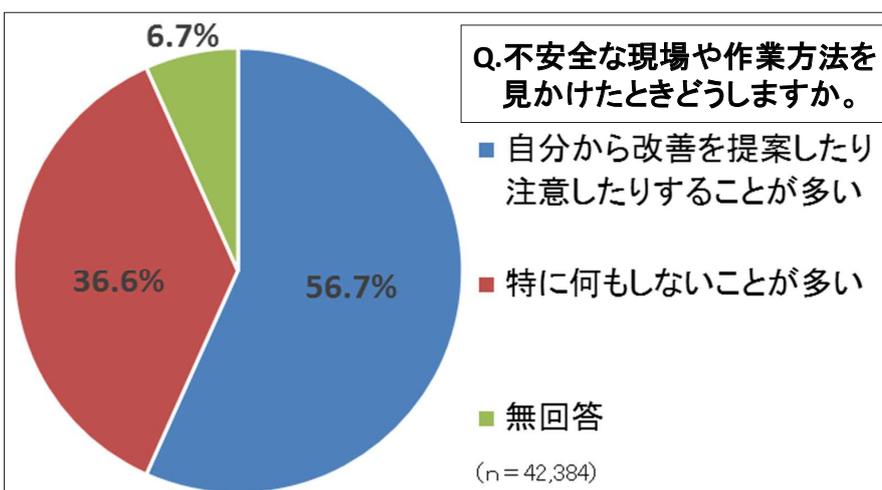
	割合	回答数
③ 元請(又は注文者)に対し安全経費を含めた見積もりを提示したことはない	22.5%	9,544
④ 安全経費に関し見積もりを提示したが元請(又は注文者)に断られたことがある	2.9%	1,218

上記④で認めてもらえなかった安全経費があれば具体的に教えてください。

・高所作業車
・ハンゴ作業等での合番の作業時の合番の外注での費用
・足場の不足金具や足場資材(足場板他)のリース損料
・開口部段差を解消する為の資材(コンパネ、足場板、結束材)
・足場/手すり/さく/作業床等
・仮設足場の階段、ネット、仮設材、作業車の配備等の費用
・安全講習の費用
・安全帯、ヘルメット、消耗品等の購入費用
・保護具(手袋、メガネ、マスク)
・表示の看板、カラーコーン、安全ロープ
・警備員費
・近隣住民(又は注文者)の仮駐車場の確保

上記のほか、「何の経費も出してもらえない」「理解出来る人が元請にいない」など、元請側において「安全経費」そのものを理解してもらえないという意見もあった。

また、「安全経費があることも知らなかった。」という回答もあった。



元請や注文者との契約時の安全経費の取り扱いに関しては、41.9%が「書面で契約しないことが多い」と回答。「必要な安全経費は、ある程度契約の中で認めてもらっている」は24.3%に止まった。また、22.5%は「安全経費を含めた見積もりを提示したことはない」とする一方、「安全経費に関し見積もりを提示したが断られたことがある」との回答も2.9%あり、安全経費の支払いについて課題も浮き彫りになった。安全ではない(不安全な)現場や作業に対して、「元請の安全意識が希薄」といった意見もあり、建設事業者の安全に対する意識改革の必要性が、改めて求められている。

不安全な現場や作業方法を見かけたとき、「自分から改善を提案したり注意したりすることが多い」との回答は56.7%に上る一方、36.6%は「特に何もしないことが多い」と回答。「特に何もしない」理由は、「自分自身が進んでやるべきことではない」が43.4%。「元請や他の作業者の反応が気になる」(19.4%)、「金銭的な負担や工期が延びることに元請が消極的」(16.4%)との声もあった。

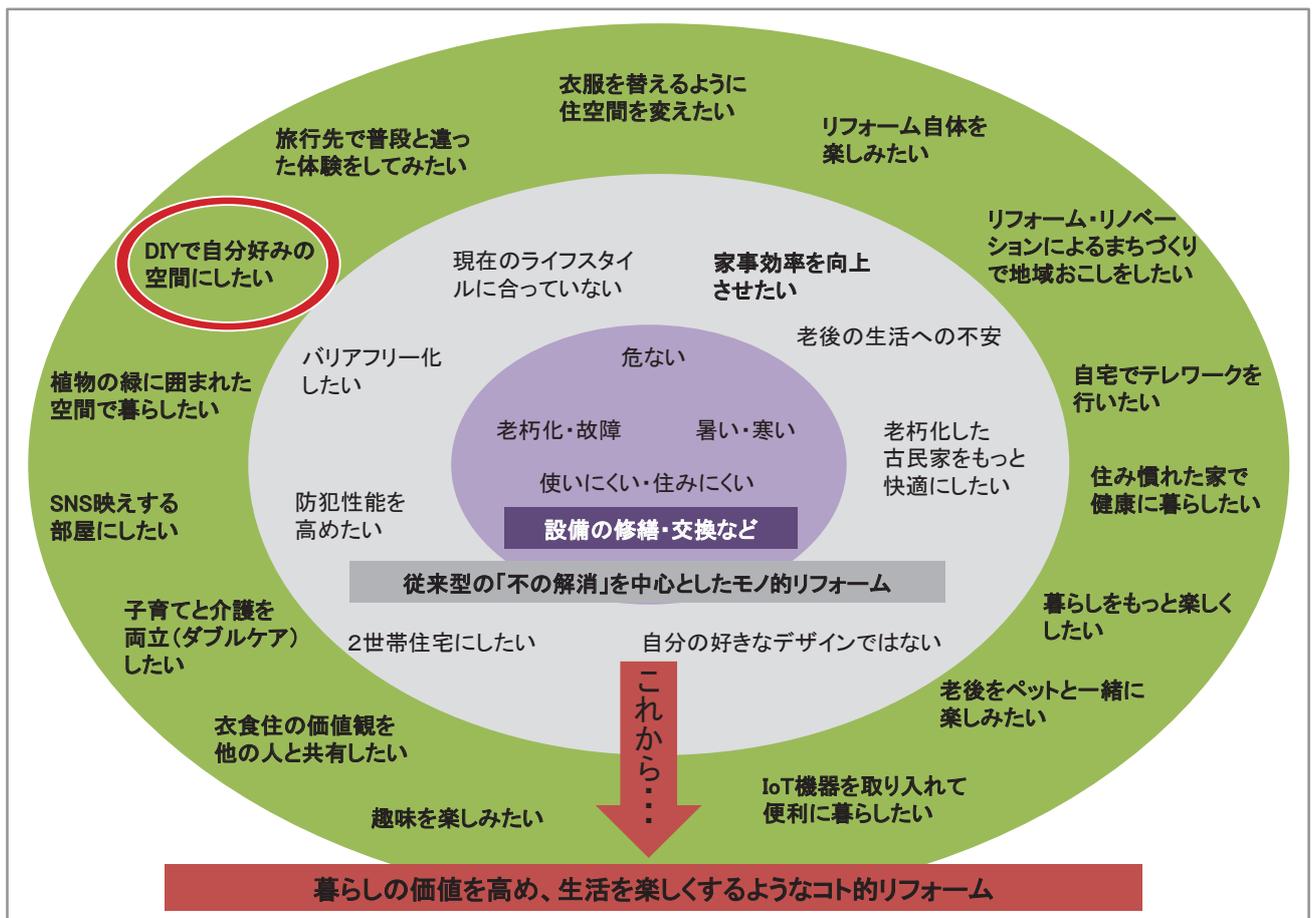
調査は、日本建設業連合会(日建連)、全国中小建設業協会(全中建)、全国建設労働組合総連合(全建総連)、建設産業専門団体連合会(建専連)の4団体を通して実施。有効回答は4万2384件。大工が33.6%を占めたほか、内装工9.8%、電気工事作業員8.9%、配管工6.5%、塗装工5.4%となっている。年齢構成は60代31.7%、50代20.5%、40代23.5%、30代10.6%、20代2.2%。

これからは「お客様とDIY」の時代

ここ数年、住まいづくりの現場で見られるようになった取り組みの一つが、「DIY リフォーム」。工事をすべて工務店やリフォーム事業者が担うのではなく、一部の作業を施主と専門家が一緒になって行うプロジェクトだ。DIY リフォームが見られ始めた当初は、室内の壁に珪藻土など漆喰を使う物件で、壁塗りの一部を施主家族が挑戦するというものが多かったが、その後、フローリングの床の張替えや、最近では断熱に取り組む事例も見られる。工務店や設計事務所などの専門家は、施主の作業を支援する形で、リフォームだけでなく新築工事にもDIYの部分を取り入れる物件も増えている。かつては事業者側から「施主のDIYに協力すると自分の首を絞めることになる」と批判的な声も少なくなかったが、施主と工務店との新たなコミュニケーションとして、DIY が改めて注目されている。

「お客様の思い出に残るし、住宅に対して、より愛着が生まれているようです」と話すのは、北関東で自然素材を活かした住まいづくりを行っている工務店の社長。DIY リフォームを始めたのは7年ほど前。最初は、予算の関係から施主の要望が実現できそうになかったため、思いつきで「壁塗りを左官屋さんに頼まないで、私と一緒にやってみますか」と施主に提案してみたところ、受け入れてもらえたことから、DIY リフォームに実際に取り組むことになったという。

この工事では、実際には左官職人にも入ってもらうことにはなったが、予想以上に施主には好評だったことから、その後も、条件が合えばDIY リフォームを施主に提案するようにしているという。「職人とお客様の交流も増えますし、また、専門家の仕事に対する理解も深まるように思います」と話している。



↑ 経済産業省「リフォームを担う人材等に関する検討会報告書～住み手とつながる住生活ソリューションの提供を目指して～」(2018年3月)から。「住み手の視点に立ったこれからのリフォーム」として、モノ的なりフォーム需要ではなく、コト的なりフォーム需要の創造を進めるべきであるとし、その一つに、DIY リフォームを挙げている。

キタケイの提供する2つのプライベートブランド
環境・ぬくもり・素材をテーマとした各種住宅資材 “ スプロートユニバーサル ”
天然木にこだわったフローリングや壁材 “ リラクシングウッド ”
企画・製造から販売までトータルにプロデュース、心からご満足いただける住まいづくりを
バックアップします。



www.sprout-univ.com

<p>環境</p>  <p>こちよい住環境</p>	<p>ぬくもり</p>  <p>住まう人のために</p>	<p>素材</p>  <p>永く使ってほしいから</p>
		



www.relaxssingwood.com

リラクシングウッド 無垢フローリング シリーズ

